

第3学年1組 算数科学習指導案

9月25日(木) 第3時限 3年 組教室 指導者

1 単元 あまりのあるわり算 (本時7/8)

2 目標

- (1) 余りのあるわり算の仕方を理解し、余りのあるわり算の答えを正確に求めたり確かめたりすることができる。
(知識・技能)
- (2) 余りの大きさを見通して判断したり、問題場面に合わせて余りの処理の仕方を考え、導いたりすることができる。
(思考・判断・表現)
- (3) 余りのあるわり算に進んで関わり、余りのあるわり算の答えの求め方や目的に合わせて余りを処理することのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 指導計画

学習課題	学習活動	時間
13÷3のようなわり算はどのように計算できるかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の課題をつかむ。 ・生活場面とつなげて考えられるように、実生活によくみられる問題を取り上げる。 ・数図ブロックを使って余りのある割り算の計算の仕方を考える。 	1
わる数とあまりの大きさにはどんな関係があるかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・わる数とあまりの大きさを比べ、どのような関係があるか調べる。 ・わり算の余りは常にわる数よりも小さくなることを確認する。 	1
1人分の数とあまりはどのようにもとめられるかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、余りのある割り算の計算をする。 	1
わり算の答えはどのようにたしかめるかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・余りのあるわり算の答えの確かめ方を考える。 ・計算し、答えの確かめの練習をする。 	2
あまりはどうしたらよいか。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読んで、余りをどうしたらよいか考える。 ・練習問題に取り組み、友達同士で学び合いを深める。 ・学習を振り返り、日常生活に生かせる場面を考える。 	2/3 (本時)

4 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ① 問題場面に合わせて、余りの処理の仕方を考え、答えを求めることができる。
(思考・判断・表現)
- ② 余りをどのように処理したらよいか、進んで考え、チーム内で伝え合うことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2)展開

(チームで学びにかかわる教師の活動にはアンダーライン)

段階	児童の活動	教師の活動
見通す (10)	<p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>はばが 30 cmの本立てに、あつさ 4 cmの本を立てていきます。本は何さつ立てられますか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>・あまりが出そうだけど、どうしたらいいのかな。 ・前回と同じやり方かなあ。</p> </div> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>あまりはどうしたらよいか考えて答えを求めよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を具体的に想像できるように、実際に本を立てていく様子を見せる。 ・問題文を読み、わり算になることを確認する。 ・余りの処理に着目できるように、見通して式を考えるとよいことを確認する。 ・あまりをどうしたらよいか考えるよう問い掛け、学習課題へつなげる。 ・前時との違いについて問いかける。 ・本時の学習課題を提示する。
関わる (30)	<p>3 本は何冊立てられるか個人で考え、その後チームで話し合う。</p> <p>㊦ $30 \div 4 = 7$ あまり 2 答え 7あまり 2さつ</p> <p>㊧ $30 \div 4 = 7$ あまり 2 答え 8さつ</p> <p>㊨ $30 \div 4 = 7$ あまり 2 答え 7さつ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ $30 \div 4 = 7$ で、あまりは 2 cm だね。 ・ 2 cm のところに本は立てられるかな。 ・ 前は 1 つたしたから、8 冊かな。 ・ 8 冊だと $4 \times 8 = 32$ だからおかしいかな。 ・ 2 cm では本を立てられないから、あまりは入れずに 7 冊だね。 ・ あまりを入れるときと入れないときがあるね。</p> </div> <p>4 適用問題に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>△ メロン 40 個を、1 箱 6 こ入りで売ろうです。</p> <p>① 何箱できますか。</p> <p>② メロンがあと何こあると、もう 1 箱つくることができますか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ $40 \div 6 = 6$ で、あまりは 4 こだから 6 箱できそうだ。 ・ 今回もあまりは答えに入れないね。 ・ もう 1 箱作るには、メロンが 6 こひつようだったね。 ・ あまりが 4 こだから、あと 2 こあればもう 1 箱できるね。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明内容が思いつかない児童には、図をかいたりおはじきを使ったりして考えるよう声をかける。 ・問題文や式の数字が何を表しているか確認するために、答えと余りの単位を問い掛ける。 ・答えの見通しが立たない児童には、教卓前方に置いてある教具を使うよう助言する。 ・図や言葉を使って一目で分かる説明をかいている児童を称賛する。 ・<u>自分で説明が書けた児童には、チームの友達と伝え合い、自分の考えを含めてホワイトボードにまとめるよう促す。</u> ・話し合いが進まない場合は、どうして今回はあまりを答えに含まないか問う。 ・学級全体で説明を共有し、問題に合わせて余りの分を答えに増やす場合と増やさない場合があることを確認する。 ・学習したことを基に、教科書の△と△の練習問題に取り組む。 ・見通した考えが考えが分かるよう、図や言葉を使って説明を書くよう促す。 ・活動3と同様、図をかいたりおはじきを使ったりして考えるよう声を掛ける。 ・あまりをどのように処理したらよいか考えることができるように、②で「もう 1 箱作るためには、メロンがあといくつ必要なのか」問いかける。 ・活動3の問題と比較して、問題によって余りを答えに含める場合と含めない場合があることを確認する。

<p>振り返る (5)</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いて、あまった2 cmに本は立てられないと気がついた。 ・問題によって答えを1ふやすときとふやさないときがあると分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が授業での頑張りを実感できるよう、机間指導をしつつ、学習の振り返りができた児童を称賛する。 ・余りに着目しつつ、余りの処理の仕方に気付いている児童を意図的に指名し、発表するよう促す。
---------------------	---	---

(3) 評価

- ①問題文をよく読み、余りをどのようにしたらよいか考えて導き、自分の言葉で説明することができたか。
(活動3・4のノート・発言及び振り返りから)
- ②余りの処理の仕方を進んでチームの友達に伝えることができたか。
(活動3・4のノート・発言及び振り返りから)